

「群馬県支部会報」

発行
令和2年2月26日
公益社団法人 日本技術士会
群馬支部 広報委員会

報告#

第2回講演会

「災害犠牲者ゼロの地域づくり～備えあれば、うれしいなし?～」



金井 昌信 様

群馬大学大学院理工学府 環境創生部門 教授

ご講演の要旨は、令和元年の台風19号のような災害から犠牲者をださないために、個々の住民や地域の備えについて考えるということでした。

災害発生時における避難行動は”命を守ること”が最も重要です。しかし、私達は、「(様々な情報等を)知ろうとしない」、「(どう行動するか等)考えようとしない」から、『わかっちゃいるけど、できていない』というご指摘にドキッとさせられました。

また、災害発生後の避難生活がマスコミ等で取り上げられていますが、「避難生活は、あくまで助かっている前提(⇨災害発生時に命を落としているかもしれない)」、「避難生活で、何もせずに不満噴出」といったお話も耳が痛いお話でした。

「群馬安全神話」を信ずる私達にとって、重要なポイントをぼやかさないような直球?のトークが小気味良かったと思います。

スケジュール等

場 所: 群馬産業技術センター 第一研修室

日 時: 令和2年2月19日(水)

13:30～13:40 支部長挨拶

13:40～15:10 講演

15:10～15:40 質疑応答



■群馬県支部長 眞下
によるごあいさつ



■ 演題

避難に関する課題

- **地域の災害リスクを知らない?**
 - ・ 地域でどのような災害の危険性があるのかは、HMなどで公表済み ⇒ 「知らない」のではなく、「**知ろうとしない**」ことが問題!
- **適切な避難方法がわからない?**
 - ・ 災害報道などからでも、避難に関する情報は、簡単に手に入る ⇒ 「わからない」ではなく、「**考えようとしな**い」ことが問題!

↓

『わかつちやるけど、できていない』

- ・ 理由はいろいろあるけど、結果として、「備えていない」、いざというときに「避難できていない」ことこそが最大の課題

■ 避難に関する(私達の)課題

災害犠牲者ゼロの地域づくり

~~**群馬安全神話**~~

敵を知り、己を知る

- 地域の災害リスクを知る
- 対処方法を知る
- 危機に対峙した人間の心理特性を知る (生き延びることを前提として、被災後の備えばかり気にしている)

■ 災害犠牲者ゼロの地域づくりは…



■ 遠方からもお越しいただいた参加者

「〇〇地震では、すべての家が倒れなかったから、自分の家は大丈夫(だから何もしない)」といった考え方をよくしてしまいます。これを心理学的には認知不協和というのでしょうか。何かを行なわなければならないのに自分が取り組めていないとき、自分に都合のよい言い訳を探すわけですね。

さて、自分はどうか? ……年をとるごとに言い訳を探して……はずかしいかぎりです。

はずかしい技術者ゆえに、住民目線も理解できる? !と思ひ込み、地域防災計画の策定や防災の手引きの作成等に関わってまいりたいと思います。

(広報委員長 小池)